

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年9月9日

【評価実施概要】

事業所番号	3870200767		
法人名	特定非営利活動法人 皇月		
事業所名	グループホーム さつき		
所在地	今治市泉川町1丁目1-29 (電話) 0898-32-1251		
管理者	今井 志保美		
評価機関名	特定非営利活動法人 JMACS		
所在地	松山市千舟町六丁目1-3チフネビル501		
訪問調査日	平成20年7月24日	評価確定日	平成20年9月9日

【情報提供票より】 (平成20年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要			
開設年月日	平成15年10月8日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	8人, 非常勤 3人, 常勤換算 9.1人
(2) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)			
家賃(平均月額)	26,000 円	その他の経費(月額)	利用状況により異なる
敷金	有( 円) (無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		
(3) 利用者の概要 (平成20年6月1日現在)			
利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	3 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83.2 歳	最低 59 歳	最高 89 歳
(4) 他に事業所として指定等を受けている事業及び加算			
指定 (あり)・なし	指定介護予防認知症対応型共同生活介護		
指定 あり・(なし)	指定認知症対応型通所介護		
届出 あり・(なし)	短期利用共同生活介護		
加算 (あり)・なし	医療連携体制加算		

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

他の利用者に「散歩に行こう」と誘って出かけられたり、コーヒーのお好きな方は、喫茶店に行かれている。利用者全員での外出を年2回程度行っておられ、お花見や秋のピクニック等に出かけておられる。  
 地域包括センターの方に外出場所先のアイデア等、相談をされている。事業所では、市内の認知症の方のご家族が集まり、話し合う場を作りたいと考えておられる。  
 利用者同士が散歩時には手をつなぎ助け合われたり、食事時「食べたかな」と声をかけておられる姿がうかがえた。

【質向上への取組状況】

前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
・利用者の馴染みの暮らしが継続されるよう、センター方式を採用してより詳細な情報収集に努めたり、地域との交流を深めるために、救命救急講習を地域の方にも参加していただく等、具体的に計画し実行されている。
今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
・職員それぞれが自己評価に取り組み、職員会で話し合い、管理者がまとめられた。職員は、自己評価に取り組み、利用者個々の思いの把握の大切さを感じておられた。
運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
・地域の自治会、民生委員の方にも参加いただき、事業所での行事等を報告されている。会議時、消防士の方の協力を得て、救命救急講習会を行われた。
家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
・職員は、ご家族の来訪時には、「気付かれたことはないか」お聞きしている。ケアに対する質問や要望等もお聞きし、ケアにつなげるよう話し合われている。
日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
・日々の散歩時等、ご近所の方とあいさつを交わしたり、声をかけ合っておられる。敬老会や夏祭り、文化祭等の地域行事にお誘いいただき、職員・利用者ともに参加された。

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

### .理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### .安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

### .サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名 グループホームさつき

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

今井 志保美

評価完了日

平成 20 年 6 月 30 日

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			法人及び事業所の基本理念として「支えあい・助け合い」を掲げており、利用者に家庭的な雰囲気の中で穏やかな暮らしと自分らしい生活ができるようホームの理念を作り上げており、地域の高齢者とそのご家族の助けになるようなホーム作りを目指している。		
			(外部評価)		
			理念に沿って、事業所と地域についても「支えあい・助け合い」を目指しておられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			グループホームの理念は事務所トイレと居間に明示しており、職員会においても度々取り上げて意識付けに努めている。また、折を見て昼休み等に利用者と一緒に居間にある理念を読み上げたり、機会を見て勉強会等も開催して理念共有に努めている。		
			(外部評価)		
			理念について、勉強会や日常の中で話し合い、常に意識したケアに努めておられる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			入居当初に理念や基本的な取り組み姿勢については説明している。また、家族会や運営推進会議等の機会を通じて事業所の理念を丁寧に説明している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 地域との支えあい</b>					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 利用者との散歩等でも近所の人達と挨拶をし、親しく話をしている。また、近所の飲食店屋や小売店等は心がけて利用させて頂いたり、いきつけの病院や美容院を継続して利用することができるよう、希望に応じて支援している。		
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 運営推進会を利用して、年初めに、利用者、職員、近所の方、利用者のご家族と共に、消防署の方の指導の下、普通救命救急講習(救急蘇生とAED講習等)を受講した。また、中学校の福祉体験活動を受け入れたり、地域である敬老会や文化祭、その他の行事にも利用者と共に参加しており、近隣地域で行われる行事には参加を心がけている。 (外部評価) 日々の散歩時等、ご近所の方とあいさつを交わしたり、声をかけ合っておられる。敬老会や夏祭り、文化祭等の地域行事にお誘いいただき、職員・利用者ともに参加された。		今後、地域の方との関係を深めていけるよう、ご近所の方達が事業所にも気軽に立ち寄ってくださるような機会を作ってみてはどうだろうか。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議において、小規模多機能施設の勉強会を開催し、開設間近の施設長をお招きしてどういう機能を持った施設であるか等詳しく説明していただいた。参加者の中には、居宅にて実際に介護をしている方もおいでたので、積極的に質問されたり、関心を持って聞いておられた。また、地区中学校の福祉体験活動の受入れを行った。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 各項目内容を職員会や勉強会、運営推進会議で取り上げ話し合うことで、具体的な改善策について話し合ったり、意識向上につなげていけるよう取り組みを行った。例えば、入居者のなじみの暮らしが継続されるよう、センター方式を採用してより詳細な情報収集に努めたり、地域との交流を深める為に、救命救急講習を地域の方にも参加していただく等、具体的に計画し実行できた。 (外部評価) 職員それぞれが自己評価に取り組み、職員会で話し合い、管理者がまとめられた。職員は、自己評価に取り組み、利用者個々の思いの把握の大切さを感じておられた。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			会議ではテーマを上げ参加者と意見交換を行っている。そうした中で出される意見を吸い上げている。例えば、地域の人達に参加を呼びかける方法活動を行うなど、サービスの向上に繋がる様努めている。また、経過報告も会議の中で行っている。		
			(外部評価)		
			地域の自治会、民生委員の方にも参加いただき、事業所での行事等を報告されている。会議時、消防士の方の協力を得て、救命救急講習会を行われた。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			当事業所を担当する地域包括支援センターの方に参考になるご意見や知識を幅広く聞かせて頂きサービスの向上につなげている。		市町村の関係者にもっと働きかけていかななくてはならないと思っている。具体的には認知症の家族会を市の広報活動を通して呼びかけることが出来ればと思っている。
			(外部評価)		
			地域包括センターの方に外出場所先のアイデア等、相談をされている。事業所では、市内の認知症の方のご家族が集まり、話し合う場を作りたいと考えておられる。		事業所では、「市内の認知症の方のご家族が集まり、話し合う場作り」について、市の広報紙を利用して参加の呼びかけを行いたいと考えておられる。市とも連携を図り、広く認知症を理解いただけるよう、取り組んでいかれてほしい。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			地域のグループホーム研修会（外部研修）に参加して勉強し、その資料をもとに職員会で発表し、職員全員が学ぶ機会を確保している。		学ぶ機会は確保しているものの、職員全員が制度をよく理解できているとはいえないので、個別的に勉強会で機会を作るなどして、もっと制度の理解を深める働きかけをしていきたい。
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			新規採用者に関しては、虐待の具体的内容の勉強会を開き理解を深める努力をしている。また、虐待が見過ごされることがないように注意を払いながら、問題意識を持って取り組んでいる。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時は段階を踏みながら、ホームの現状等の説明を行い、重要事項等の説明を丁寧に行っている。また、何度かホームに来ていただいたりお宅訪問する等して話し合う機会を設け、ご家族からの疑問点もうかがうようにしている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者との面会は自由にでき、利用者ご本人又は関係者が意見や苦情等を職員等に訴えやすいよう、こちらから不便はないか問いかける等して意見の言いやすい環境作りを心がけている。また、直接言いにくい場合は意見箱を利用してもらうようにしている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	(自己評価) 毎月、ご家族へは利用者の暮らしぶりが分かるよう、個別にお便りを作成して送付している。また、金銭の出し入れや立替金等については、領収書を必ず添付し、詳細に記帳する等を徹底して、ご家族にお送りしている。		
			(外部評価) 日頃のご本人の様子や金銭管理について、領収書を添付して報告されている。又、事業所便りを毎月発行し、事業所全体の取り組みもご家族に報告されている。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が面会に来られた時には、利用者の暮らし等で気になる点があるかを職員の方から尋ねるよう指導しており、また、責任者は常にご家族の意見を聴きだせるように努めている。また、意見箱も設置して、匿名での意見も伺えるようにしている。		
			(外部評価) 職員は、ご家族の来訪時には、「気付かれたことはないか」お聞きしている。ケアに対する質問や要望等もお聞きし、ケアにつなげるよう話し合われている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員会議や勉強会にも、管理者は勿論、運営者も加わっており、その際に積極的な意見交換を行っている。また、採用時及び常日頃からその重要性を伝えており、日頃から職員からの意見はないか積極的に運営者から質問もしている。		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 運営者自身が、利用者の状況に応じてアルバイトやパート職員を増員する等して、職員自身にもストレスがかからないようなゆとりのある職員配置を積極的に考え、実践している。		
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 当ホームは1ユニット(定員9名)であり、退職以外での職員の異動はない。職員全員で個々の利用者の介護支援をしており、職員に退職があってもサービスに変わりがないよう、利用者のダメージを防ぐ努力をしている。また、日頃から利用者の安定した暮らしに重点に置いた運営を行っている。		
			(外部評価) 新しい職員が入った場合は、1ヶ月の研修期間を設けて、先輩職員とともに利用者とかかわり、利用者、職員とも馴染んでいけるよう取り組まれている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 勤務に余裕がある時には、ホーム内で様々なテーマを設けた勉強会を開催し、職員の意識向上につなげている。また、研修費用の事業所負担や勤務上の支援を行い、積極的に全職員が外部研修を受けられる機会を設けている(グループホーム連絡協議会主催の研修)。更に、その外部研修内容を職員会等で発表することで、未受講者へ伝えている。		
			(外部評価) 毎月、職員会を行い、月に2~3回、勉強会を行なっておられる。利用者個々の情報を共有されたり、ご家族からの希望や要望等についても話し合われている。外部研修は計画的に受講し、受講後は他の職員にも内容を周知されている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 運営推進会議に同地域の小規模多機能施設長にお越しいただいたり、夏祭り等の機会を利用して連携グループの事業所を訪問したりすることで、ネットワーク作りに努めている。また、グループホーム連絡協議会の研修や相互研修、管理者座談会等にも意欲的に取組んでいる。		
			(外部評価) 法人代表者や管理者は、市内連携グループの交流会、管理者は東予連絡協議会の管理者交流会等に参加し、他事業所と交流をされている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 朝の忙しい時間帯にアルバイト職員の配置を行うなど、職員が時間と心にゆとりを持って働け、合理的な作業が進められるよう工夫している。また、運営者自身が積極的に職員の意見を傾聴し、勤務体制も無理のないよう日頃の運営に取り入れている。		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者が常日頃からホームによく顔を出し、また実際に勤務に就くことで介護の実態を感じ取り、現状を知った上で職員の勤務状況や態度等を把握している。また、職員が職業意識や目的意識を持ち向上心につながるようにと考え勉強会を開催しているが、職員自身にもテーマを持って勉強会に参加するよう呼びかけている。		人員的にゆとりが無いと勉強会の開催については難しい面があるが、更にホーム内での勉強会の開催頻度を上げ、内容を充実させていきたい。
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 入居前にはご本人と何度も会い、ご本人やご家族からこれまでの暮らしについて時間をかけて話をうかがい、聞きだせるように努めている。また、これまでの生活の様子を理解し、ホームでの生活がスムーズであるよう配慮し努力しており、新しく入居された方に対しては、センター方式も活用し情報収集に努めている。		もっとセンター方式の充実を図るなどして、利用者の立場に立ったケアに繋げていきたいと考えている。



自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談を受けた時から入居されるまでには、何度も、どのような点に困っておられるか、また求めておられるのかうかがう機会を設けている。また、ご家族からの相談には誠意を持って応じ、それに応える努力をしている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居相談時等にはよく事情をうかがいながら、必要に応じて連携施設やグループの様々な支援体制があり、支援が可能であることを説明している。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居前にご本人にホームに来ていただく機会を設けたり、必要に応じて体験入居制度をとっており、実際に多くの希望者がその制度を利用されている。その体験入居の中で、徐々に雰囲気を知ってもらい、納得された上での入居手続きを心がけている。また、その際には社会的な利用者の傍に座って会話してもらうとともに、職員も努めて声かけして安心できる雰囲気作りをしている。		
			(外部評価) 事業所の見学や体験入居も、1週間程度できるようになっている。又、口頭での説明も繰り返し行われている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) リハビリ体操やカラオケなどの全員レクリエーションを1日に一回しており、他にも時間をゆっくりとって、マンツーマンの個別レクリエーションやリハビリに努め、笑ったり楽しんだりすることで支えあう関係を作っている。また、家事なども一緒に助け合っており、先人の知恵を学ぶ機会もある。		意思表示や会話が難しくなってきた利用者は、ともすれば介護されるいっぽうの立場になりがちである。一緒に喜怒哀楽を共にして楽しい時間を過ごす対策はとってきたが、そうした方から学んだり支えあう関係をどのように作っていくか、今後も職員会議等を通して一緒に考えていきたい。
			(外部評価) 職員は、家事のことを教えていただくことが多い。利用者同士が散歩時には手をつなぎ助け合われたり、食事時「食べたかな」と声をかけておられる姿がうかがえた。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 積極的にホームに来てご本人と話したり、時には一緒に散歩に出させていただくなど、ご家族の状況を考慮しながら、協力していただける点があればお願いして一緒に過ごしていただいている。また、家族会を行ったりお花見会や餅つきなどの季節の行事等にはご家族に参加を呼びかけ、皆で楽しめる機会を設けている。		ご家族の事情を考慮しながら、ご家族とご本人との関わりが深まるよう、こちらからももっと働きかけをしていきたい。(例えば、何か悪いことがあった時だけ連絡するのではなく、今日はこんな事ができた、最近体調が良いなど、良いことも積極的に連絡することで、ホームに足が向きやすくなりはないか。)
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) ご家族には、ご本人のホームでの生活や心身状態をお便り等でお知らせして現状についてご理解いただいている。また、面会時等にはご家族の不安や心配事についてお聞きしたり、サポートしながら支援している。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの人、友人、ご近所との付き合いが全く途切れてしまうことのないよう、面会時や散歩の際に積極的に話しかけている。また、会いたい人がいるなら電話をかけたり手紙を書く等して、会う機会を作ったり連絡を取れるよう支援している。		現在でも、馴染みの人や場所との関係を大切にしているが、時間を作りもっと機会を増やしていきたい。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員は、利用者同士の関係を把握しており、レクリエーションやおやつ、ティタイム、散歩や外出等を利用して利用者同士の交流時間を作り、利用者が孤立せぬよう努めている。また、職員が間に入って話しかけたり、ホールの席の位置を考えたりして、会話しやすい環境を作っている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 一度ホームに入居された方とのご縁を大切に、ご家族とも密な関係を持っていきたいという運営者の姿勢もあり、運営者自ら、退居後も電話連絡を入れたり、入院先へのお見舞い等に出かけるなどしている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			入居時はもとより、日頃よりご本人やご家族に生活面での希望を聞いている。また、これまでのライフスタイルを聞き、できるだけご本人に合った環境作りに努め、その人らしい生活ができるように努めている。		
			(外部評価)		
			職員は、センター方式の書式や介護認定の調査様式を利用し、利用者個々の把握に努めておられる。ご家族の来訪時や利用者から聞き取ったこと等を話し合い、共有に努めておられる。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			入居時にアセスメントを行い、情報把握に努めて、なるべくホームでの暮らしがこれまでのものに近いよう努めている。最近入居された利用者に関しては、センター方式を利用して情報収集を行っている。また、入居後も面会時等に聞くことのできた生活歴に関しては記録に残している。		センター方式の活用は、新たな利用者として、ご本人から聞き取りし易い利用者が中心となっている。徐々に良いので、今後も全ての利用者のこれまでの暮らしの把握に努めていきたい。
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			申し送りや日々の記録から、利用者の日々の心身状態が把握できるようチェック機能を構築しており、職員会や勉強会等でもその人に合った過ごし方ができるように話し合っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			ご本人やご家族からの希望やアイデアを日頃より伺っており、それと日々の記録等をもとにして、全職員が意見を出し合って介護計画を作成している。		ご家族を踏まえたケアカンファレンスは未だ行えていないので、ご都合も伺い、直接参加していただく機会を設けた。また、例えば離所する方への対応策などについては、運営推進会議を利用して地域の方の意見を伺ったり協力を仰ぐなどして、ご家族だけでなくもっと広範囲の意見を取り入れられたら良いと考えている。
			(外部評価)		
			職員個々が利用者個々の担当となり、利用者やご家族と話し合い、ご本人・ご家族の思いが計画に採り入れられるよう努めておられる。		管理者は、ご家族とともに介護計画を検討していきたいと考えておられる。又、いろいろな方の意見や協力を得て、介護計画に反映していきたいと考えておられた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)  日々の身体機能の変化に伴い、随時モニタリングを行っているので、問題提起がすぐになされており、それに伴い必要な場合はケアプランを変更している。		
			(外部評価)  入居時、計画を作成し、その後3ヶ月・6ヵ月ごと等、状態変化に合わせて見直しを行い、利用者の現状に合わせたプラン作成に努められておられる。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)  日々の個人記録にケアプランチェック欄を設けて日々チェックを行っており、また、月毎には経過記録をまとめることで、介護計画の見直しに活かしている。申し送りのやり方も再考しながら、より良い方法を探り実践している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)  馴染みの理美容院の送迎や医療機関への受診援助、友人や親戚宅等への訪問援助や、自宅への一時帰宅の支援など、柔軟に支援している。また、民謡や法話の外部ボランティアの活動を受け入れている。		
			(外部評価)  利用者のお知り合いのお宅を訪問されたり、ご自宅の様子を見に戻られたりする際や、病院の受診時等、職員が付き添い対応されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
40		(自己評価)  地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価)  警察、消防署には、運営者が足を運び必要な協力をお願いしている。今年の初めには、普通救命救急講習（蘇生法、AED講習）をほとんどの職員が受講することが出来た。また、地元小学生の獅子舞や中学生の福祉体験活動、ボランティアによる演目披露、お坊さんによる月に1度の法話や読経等のイベントが増えることにより、地域とも親交を深めている。		
41		(自己評価)  他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価)  協力医療機関や連携施設と連絡を取っており、必要に応じ利用者やご家族の要望に応えられる支援体制を取っている。		
42		(自己評価)  地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価)  運営推進会議に地域包括支援センターの職員が参加するようになり、話し合いの機会を定期的に持つようになった。情報交換や協力関係を築いてきている。		平成20年度からは、地域包括支援センター職員に変わり、市職員の方が運営推進会議に参加されるようになったが、その方を通じて、今後必要に応じて連絡を取って行きたい。
43	18	(自己評価)  かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している  (外部評価)  受診記録を作成し、職員間で情報を共有されている。協力医療機関とは、いつでも相談できるようになっている。	(自己評価)  ご本人やご家族には、入居時に医療を受ける際の希望を聞き、要望に沿って対応している。また、異常の早期発見、早期受診を心がけ、症状により適切な医療機関の選択をしている。		
44		(自己評価)  認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価)  ホームには、最低月1度は協力医療機関の医師が往診してくれており、日常的に連絡して相談できる体制にある。また、状態や必要に応じて認知症の専門医に相談、受診をしている。		認知症の専門医での受診の機会を、もっと持つ事が大事と考えている。

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員に看護師、準看護師が数名いる。管理者自身が看護師でもあり、健康管理や医療活用については職員にも適切な指導をしている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) 入院時は、ご家族と密に話し合い、連絡を取り合っている。また、担当者を決めて病院関係者と情報交換や相談が充分にできるように対応している。運営者自らが、病院へは毎日のように様子を伺い、今後の事についてもご家族と話し合いながら誠意を持って対応している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 利用者の状態の変化には注意を払っており、逐次ご家族を初めとする関係者が話し合っており方針を決めている。家族会の議題に重度化と終末期に関して取り上げ、話し合う機会を設けた。事業所としては、主に運営者がそれらの連携を取り対応している。事業所としては、今後、終末期介護にも積極的に取り組みたいと考えている。 (外部評価) 重度化・終末期の支援におけるご家族の要望、職員の対応について、その都度、医療機関やご家族と相談しながら取り組むということ等、職員間で話し合われている。		家族会では、今後もその時々の方々のホームの状況を含めて、重度化や終末期に向けてのご本人やご家族から意見を伺い、話し合いを重ねていきたい。  これまで看取りの支援の経験がないようであるが、事業所では、今後、終末期介護にも積極的に取り組みたいと考えておられる。さらに、職員も看取りや重度化等に関する勉強を重ね、ご家族の協力も得ながら、チームが一丸となって取り組みをすすめていかれてほしい。
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) これまでホームで終末期を迎えた利用者はおられず、入院される方がほとんどだが、まず、重度化する可能性を感じた時には、ご家族と今後の問題について改めて話し合っている。重度化に際しては、職員間でも対応や対策面について話し合い対応している。終末期に向けたケアとしては、今の段階で可能かどうか、また、どういったところが難しいか等、職員間でもっと活発に意見を出し合う必要がある。		特に終末期に向けて、ご本人の意向やご家族の意見を日頃から十分に聞き取る必要がある。また、職員間でも、終末期に対してどう対応したいか、どういったところに壁があるのか等、もっと活発に意見を出し合っており、ホームとして「できること、できないこと」を明確に打ち出し、ご家族と話し合う必要がある。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 必要に応じて、協力医療機関や連携施設の間で情報交換しながら、スムーズに対処できるよう日頃から対応している。ご家族と話し合い、情報交換を充分に行って、納得した上で進めていくようにしている。また、サマリー用紙を作成し、準備している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
50	20	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	(自己評価) 利用者の気分を壊さないような声かけやコミュニケーションのとり方については、職員会や勉強会でも、心がけるよう常に話し合っている。プライバシーや個人情報を守る事の重要性や職業意識として欠かせない事も話し合ってきている。		
			(外部評価) 申し送り帳や日報等、個人情報を記入する場所を決めておられる。職員は、やさしく丁寧に利用者にかかわっておられた。		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	(自己評価) なるべく食べ物や飲み物に選択の幅を持たせて、ご本人の希望に沿うようにしている。また、レクリエーションや作業は強制せず、無理の無い範囲で能力に合わせたものを選んでもらっている。普段の関わりの中で、本人がどのような希望や要望を持っているのか、聞いたり感じたりしながら介護に携わっている。		全ての職員が、日常生活の中で利用者からのサインをもっと感じ取れるように努めていきたい。
52	21	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員の都合を優先せぬように常に話し合っている。「自分らしい生活」はホームの理念であり、その人らしい生き方、その人に合ったペースでの暮らしの支援に重点を置くよう、運営者、管理者、職員ともども努めている。また、日中の職員の数を増やし、ゆっくりと一人ひとりに向き合う時間を大切に、利用者の暮らしの希望に添える努力をしている。		勉強会等でも、もっと「その人らしい生き方」とは何か、個別に掘り下げて話し合っていきたい。
			(外部評価) 職員は、散歩、共用空間、居室での利用者の過ごし方を見ながら、それらに合わせ対応されている。		管理者は、「その人らしい生き方」について職員全員で考え、支援に工夫を重ねて、さらに利用者個々の生活の質を高めていきたいと考えておられる。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 美容院利用の希望者があると、かかりつけの店に連絡して予約を決め、送迎支援をしている。利用者の中には、ご家族が理容室に連れて行って下さる方もいる。また、入浴時には着替えの服をご本人に選んでもらったり、利用者専用の化粧箱を用意し外出やイベントのある時等にお化粧をしている。		
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 主な調理に関しては外注しているが、利用者の中には積極的に台所の手伝いやお皿拭きなどの後片付けを手伝われる方もおられる。また、日常的にはいかないものの、一緒におやつを作ったり、食材のしたごしらえを手伝ってもらう機会を設けている。 (外部評価) 利用者の状態や体調に合わせて、ミキサー食や食材を小さく切る等されている。又、パンのお好きな方にも希望に応じておられる。		利用者とおやつ作り等で一緒に作業する機会をもっと多く持つようにしたい。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 喫煙される利用者に関しては、毎日タバコ当番を決め、その職員がタバコの管理支援を行い、本人が希望する時間に喫煙するようにしている。また、日曜と木曜には、ホーム内喫茶を行い、手作りのお菓子を作り、飲み物やおやつも出来るだけ本人の希望する物を準備している。		
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 排泄チェック表に毎日個人の排泄状態を記載しており、職員全員が把握できるようになっている。この表を元に申し送りを行い、毎日排泄トラブルのない支援を心がけている。日中はこまめにトイレ誘導をし、利用者によっては時間を長く座って頂く等工夫をして、なるべく便器での排泄ができるように支援し、努力している。		



## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			男女の入浴時間をずらしたり、希望を聴いたりして、なるべくご本人の希望時に入浴が出来る様に配慮している。		
			(外部評価)		
			仲の良い方同士で入浴されたり、機械浴を利用される方もいる。ご家族からのご意見で、介助する職員についても男性、女性で配慮をされた。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			日中、倦怠表情の著しい方には居室で横臥して頂くなど、適時休める無理の無い生活を送れるように支援している。また、就寝前にはゆったりと過ごしてもらい、刺激の少ない飲み物を準備して、安眠につなげている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			レクリエーションや創作活動、パズルや計算問題等、その方の得手不得手に合わせて声かけし、支援している。また、利用者によっては小鳥の世話や生け花、庭で草木を愛でる等、個人個人の関心事や趣味に合った役割、楽しみを持って生活を送れるよう支援している。		
			(外部評価)		
			ご自分のシーツの交換をされたり、庭の草とりや水遣りをされる方もいる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			ご本人が希望される場合は、ご家族と相談し、自由に使えるお金をホームでお預かりして外出時等に遣っていたりしており、その人の能力にあった金銭管理を行い支援している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			お天気の良い日は積極的に散歩に出ており、また、いつも行けるというわけではないが、ご本人の希望等もお聞きして、ドライブ、季節の花見、文化祭、展示会や喫茶店等に出かける等の外出支援をしている。		努力はしているが、満足しているとはいえない利用者もおられる。
			(外部評価)		
			他の利用者に「散歩に行こう」と誘って出かけられたり、コーヒーのお好きな方は、喫茶店に行かれています。利用者全員での外出を年2回程度行っておられ、お花見や秋のピクニック等に出かけておられる。		
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			普段から利用者に外出の希望などを良く聴いている。多少遠くても機会を作り希望に沿うように努力している。具体的には、里帰りやバラ園、法事による帰宅などの支援を行っている。		
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			電話でいつもかけていただいたり、取次いだり自由に出来るようにしている。レクリエーションで暑中見舞い、年賀状など作成し、ご家族や親しい人へお便りを送っている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			ご家族や関係者が何時でも遠慮なく来られる家庭的な雰囲気になっている。また、来客時には湯茶等でもてなし、ゆっくり利用者と話せ、心地よく過ごせるような環境作りを心がけている。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)  職員会や勉強会でも度々取り上げ、身体拘束に対する知識を深め、事業所としては絶対に身体拘束を行わないことを信念に介護に取り組んでいる。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価)  ホームは夜間以外は施錠しておらず、戸の開閉時にベル音やチャイム音が鳴るようになっている。外出しやすい利用者については、気に掛けて勤務についている。また、職員会や勉強会でも鍵をかけないケアについて、意識を高く持つよう日頃から話し合っている。  (外部評価)  日中は玄関のチャイム音で人の出入りを察知し、対応されている。		
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価)  昼間は主に居間にて所在確認をしており、夜間は巡回時に各居室において確認をしている。また、安全性を考えブザーをつける等しながら、ご本人の状態に合わせた対策をとっている。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価)  状況に応じて収納場所を変化させたり、目に付かないところに保管・管理することで対応している。また、縫い針は数を確認し、刃物やハサミは必要な時だけ使い、普段は目に付かない決まった場所で管理している。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価)  事故防止のため、個人に考えられるリスクを取り上げ、ケアプランに組み入れ対応している。事故後は、ヒヤリハットや事故報告書を利用して再発防止に取り組んでいる。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを利用し、職員会などで勉強している。また、消防署の担当者にホームに来ていただき、救命救急、応急手当等の指導を受けている。いざという時全職員が適切な処置ができるように、新人教育にも勉強会などで力を入れている。		
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 運営推進会議の議題にも上げ、地域との協力や対策面について話し合いを進めている。また、災害時の協力を近所の方にも直接お願いしに行っており、避難訓練等も定期的の実施し、昨年より、特に職員が1人になる夜間帯の事故を想定して訓練を充実させている。  (外部評価) 年2回、利用者とともに避難訓練を行っておられる。所要時間を計られたり、消防署の協力を得て、地域の方の参加のもと、救命救急訓練も行われた。		いざといった時に全職員が適切に対応できるよう、今後も繰り返し実施していきたい。また、新人職員は特に勉強会等を通じて重点的に指導していく必要がある。  職員は、夜間、緊急時や災害時の対応について不安な点もあると話しておられる。今後も、訓練や地域との相互協力体制作り等、いざという時に、すべての利用者、職員の安全が確保できるよう、取り組みをすすめていかれてほしい。
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 日頃の状態の変化については、お便りや面会時、家族会の際に、また必要時には連絡を入れてお伝えしている。その中で、現状理解と心身機能の低下により起こりえる事故の回避説明や話し合いを行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 朝・夕にバイタルチェックを行い、利用者の体調変化や異変に早期に気づくよう心がけている。また、体調変化等については早めに報告を上げるよう、日頃から申し送りの徹底に努めている。また、すぐに対応できるように責任者に随時報告している。		

## 自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者が処方されている薬についてはすぐ分かるように管理しており、誤薬の無いよう、薬配箱に入れる際、配膳の際、服薬の際と3回確認を行っている。また、服薬確認や薬の用法・用量、副作用等によって起こる体調変化の理解にも努めている。特に症状の変化の確認については気をつけるよう日頃から指導されている。		現在、病院より処方されている薬の説明用紙をいつでも見て把握できるようにしているが、薬の副作用等について理解不足の職員もいる。全職員がそれらについて理解できるように、今後も説明指導していく。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつは、食物繊維が豊富なものを選び、十分な水分補給と寝る前の牛乳摂取等で自然排便を促している。頑固な便秘に対しては、医師と相談して緩下剤等を使用している。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後、歯磨きや義歯洗浄を行い、夜間には適宜義歯のポリドント消毒をしている。また、口臭の気になる方に関してはモンダミン等を使用しての口腔ケアを積極的に行っている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事の摂取量や水分量については、毎食チェックして記録に残して、必要量が取れているか一人ひとり注意している。また、嚥下困難な方や油分制限のある方、偏食の利用者には、形態や調理方法を工夫して全量摂取を目指している。 (外部評価) お茶をいつでも飲めるように、台所に冷水ジャーが設置されていた。お茶ゼリーで水分補給する場合もある。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染予防のマニュアルを職員一人ひとりにも配布して、随時、職員会や勉強会等の場でも学習している。また、流行前にインフルエンザの予防接種を職員・利用者ともに行っており、日常的に酸性水やウエルパス、マスク使用についても取り決めをして感染予防に注意している。特に冬季は、帰宅された利用者や職員の全員に手洗いと緑茶のうがいを徹底し、外部からの訪問者にもお願いしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>(自己評価) 1日1回まな板や包丁は熱湯をかけて消毒し、食品は賞味・消費期限をチェックして使用している。また、食事については外注しており、業者が調理して真空パックに入れて配送してきた物を指導通り熱を通して出している。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>					
80		<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 住宅街の中で他の住宅と同じような和風建築の建物であり、馴染みやすい玄関の作りになっている。また、駐車場や前庭、周囲に草木を植え、自然な感じで出入りしやすくなっている。</p>		
81	29	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 居間の大窓からは、庭への出入りもでき、四季の花を見ながら楽しめる環境になっている。玄関やロビーには利用者が活けた花や観葉植物を飾っており、また、清潔な環境作りを心がけている。また、必要に応じて椅子や手すり等を随時配置し、利用者の状態に合わせて設備等も整えている。</p> <p>(外部評価) 庭には、ガーデンテーブルが置かれている。玄関や居間には、利用者が活けて下さった生花が飾られていた。七夕の飾りがなされ、又、クーラーの冷気が利用者に直接当たらないように、風除けを工夫されていた。</p>		
82		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) ロビーと居間とで思い思いに過ごせるようになっている。テレビ番組にこだわりのある利用者は、ロビーに移りそこでじっくりと自由にテレビを見られている。また、畳やソファの配置を考え工夫しながら、絶えず過ごしやすい居場所作りを考えている。</p>		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居当時から、馴染みの物や道具を持ってきてくださるようご家族にもお願いしており、箆笥や鏡台、使い慣れた折りたたみベッド等を持ってこられている利用者もおられる。また、ご家族やご自分の写真を飾ったりして、居心地の良い居室作りを工夫している。		機会を捉えて、馴染みの家具等の品物を居室に配置して下さるよう、本人やご家族にお願いしているが、利用者によっては幾分馴染みの物品が少ない方もおられる。
			(外部評価) 各居室の入り口には、のれんや名札をかけ、居室内には自宅で使用されていた鏡台やタンス、小型冷蔵庫が持ち込まれていた。又、ご家族の写真やお花を飾っておられる居室もうかがえた。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価) 24時間換気システムが採用されている。また、季節や時間帯によって、職員一人ひとりが注意を払って換気を行い、室内の適温調整も心がけている。		職員によって感覚が異なるため、対応にもやや開きがあるように思われる。室温は感覚に頼らず温度計を見て調節したり、直接冷房の風が利用者当たる配席となっていないか等、職員一人一人が細やかな心配りができるように徹底していきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 下肢に障害のある方はなるべく洗面所やトイレの近くに座ってもらったり、通路や公共の場を塞ぐ形で物を置かないよう整理整頓にも気をつけている。また、安全性と自立度を考え、ワイヤレスや滑り止めマットを配置している居室もある。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価) 本人の状態にあわせて工夫し、より良い生活環境を整えている。また、できることの声かけを心がけ、本人の状態に合わせて工夫した介護に努めている。		さりげなくできる職員もいれば、利用者のかわる力の把握が不十分な職員もいる。全職員が、利用者一人ひとりのわかる力を活かした介護を実践できるよう勉強会等を通じて、より一層の意識向上に努め、統一したケアに努めたい。
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価) 居間から直接前の庭に出ることもでき、利用者は、草花や樹木を植えて愛でたり、タバコを吸って一服してくつろがれている。また、庭から取ってきた花を活けてホーム内に飾って楽しんでいる方もおられる。たまには庭に出て芋炊き等をして楽しんでいる。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ② 利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	利用者との会話の時間を積極的に持っていき、それぞれの利用者の思いや願い、意向は、その会話の中でよく出たりつかみ取れることも多い。また、それらについてスタッフ間でも話し合う時間も持っている。ただ、認知症の重度化に伴い、意思疎通の難しくなってこられた利用者の方もおられるので、ほぼ全員とは言い難い。
89	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ① 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	運営者側からゆとりのある介護ができる勤務体制を組んでくれており、現在は午前中は比較的時間がある。また、ティータイム時や食事時は、利用者職員と一緒にゆったりと話したり過ごせる時間も持っている。また、食事を業者から外注することで、一方では利用者とお過ごせる時間の幅が広がりゆとりが持っている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	しんどい時や眠い時には、個人別に休んでもらうよう職員も心がけており、また、あせることの無いよう声かけも行っている。起床時間についても、その夜の睡眠時間等によって夜勤者が個別に対応している。個人個人のペースに合わせた支援については、勉強会でも良くテーマとして取り上げられている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	毎日のレクリエーションやケアにより、初めに怖がったり痛がったりしていた利用者のその様な反応が軽減したりなくなったりしている。また、職員に支援されることを嫌がる利用者もおられるが、ほとんどの方は笑顔で話しかけに答えられ、利用者にも関わり、支援する中で生き生きとした笑顔が見られることが多い。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) ③ 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	戸外への散歩は、日頃からよく出かけており、気分転換になる外出はしているものの、「行きたい所」に「行きたいだけ」出かけているとは言い難い面もある。また、戸外へ行きたいと意思表示される利用者も限られており、その意向の把握が難しい利用者について職員の判断になっている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (自己評価) ① ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	病院との連携も取れており、食事も配慮し、体重測定も定期的に行い、歩行訓練を初めとした日常的なリハビリや、毎日朝夕にバイタルチェックを行う等、常に健康管理には気をつけている。また、介護者には正・准看護師免許保持者も数名おり、介護者も意識を持って働けている。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (自己評価) ② 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	不穏時は利用者から話を聞き、対処している。しかし、一方で帰宅願望が強い利用者もおられ、ご家族の都合やホーム職員数など様々な点から、外出や外泊で対応できないこともあり、万全とはいえない。また、要望を出せない利用者に対して、よく観察する必要がある。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (自己評価) ② 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	面会の際には要望や相談などが無いが、良く話す機会を持っており、ご家族から出た要望に対しては可能な限り対応している。また、面会が少ないご家族に対しても、運営者自身が連絡を取り、ご家族の状況等については把握し信頼関係ができています。一方で、新入職員はご家族と話す機会も少ない為、信頼関係を築けているとは言い難い面もある。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) ③ たまに 4 ほとんどない	不定期だが、よく会いに来られる知人の方はおられる。また、近所の方や沖縄民謡、副住職の法話、座・パリーマの演芸披露等、定期的にホームを訪ねてくれる方、団体もあるものの、日常的に見られることではない。



項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが広がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えてい る (自己 評価) ② 1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない	運営推進会議を開く前と比べると、ホーム内のことを地域住民の方に理解していつてもらえ ているように思う。お餅つき大会には、地域住民の方も数名参加していただき、近所を散歩す る際に挨拶をする範囲は広がった。しかし、それも特定の地域住民への広がりという段階であ り、大いに増えているとまでは言えない。
98	職員は、生き活きと働けている (自己 評価) ② 1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない	職員は其々考え方も思いも違うため、全員が、全く不安、不満がなく働いているわけではな いが、一人ひとり一生懸命、生き活きと働いている。運営者は、ゆとりのある介護ができるよ う勤務体制やより良いホーム作りを目指して邁進しており、運営者も管理者も、職員のストレ スや悩みを聴いて、ストレス除去に努めている。
99	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う (自己 評価) ② 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	一部、自由になりたい、自宅に帰りたいという思いが強い利用者がおられ、その方が精神的 に満足されるまでの十分な支援がしきれていないこともある。また、人によってはその状態、 感情は刻々と変化するので、完全では無いと思われるが、多くの利用者笑顔が見られ満足さ れているのではないかと思います。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う (自己 評価) ① 1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない	苦情等は寄せられておらず、ご家族の表情や「安心してます」等という言葉から、おおむ ね満足されているのではないかと思います。ただ、聞かれた事などにすぐ返答できないこともあ るので、多少の不満、物足りなさを感じられることはあるのではないかと感じることもあり、改 善していきたい点である。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

1 ユニットで利用者が少ない為、よりアットホームな雰囲気である。  
 天気の良い日は、寒い冬の日も暑い夏の日も、車椅子の人も戸外散歩に出て、日光に当たったりお花を見て季節を感じてもらっている。  
 職員に余裕があれば、ドライブや喫茶、外食など、利用者の希望通りの支援努力をしている。  
 個々の能力に合わせ、レクレーションによる脳リハビリを、時にはマンツウマンで時間を取って行っている。  
 ご家族が来られた際には、必ずスタッフを含めた会話の場を作り、ご家族の意見や不安な事をお聞きするよう心がけている。  
 個人個人のケアの注意点や問題点を、ケアプランを通じて職員全員が意識して日々の介護を行っている。  
 ゆとりのある生活がグループホームという少人数の生活で営めている。  
 思いやりをもって、安心して暮らせるように心がけており、ご家族にとって「もう1つの家」になっていると思われる。  
 利用者一人一人の体調管理や服薬管理、布団干し等も心がけて行うなど、衛生面や健康面では細かいことにも日々気をつけている。  
 至る所に緑が飾っており、各部屋ごとに思い出の写真を飾っており、家庭的な雰囲気作りが出来ている。  
 いまだ完全に出来ているわけではないが、ホームとして統一したケアを目指して日々努力している。  
 日々の散歩を通して、近隣住民、地域住民の方とのつながりを広め、利用者の方々が沢山の方と出会い、触れ合う事により、楽しい日々を送っていただいている。